

## 平成22年度第1回富山県環境審議会議事録（概要）

### 1. 富山県環境審議会の組織・運営等について

#### ア 会長の選出

・宮下尚委員が会長に選出された。

#### イ 副会長の選出

・竹内茂彌委員が第1順位副会長に、岩城勝英委員が第2順位副会長に選出された。

#### ウ 各専門部会に所属する委員等及び専門部会長の指名

・宮下会長が、7つの専門部会に属する委員等と専門部会長の指名を行った。

### 2. 富山県環境基本計画の見直しについて（諮問）

（委員）基本計画には学校教育との関わりを少しでも入れたらどうか。

（事務局）分かりました。

### 3. 庄川水域等に係る環境基準の水域類型の指定の見直しについて（諮問）

<質疑事項なし>

### 4. 県立自然公園の指定について（諮問）

（委員）

県立自然公園は優れた風景地の保全、レクリエーション等の場であるということだが、例えば有峰自然公園では、採ってはいけない指定植物が250～60種、希少種の植物などもたくさんある。5つの県立自然公園すべてで、独自の植物の植生を調査しているはずだが、今回の報告にそのような植物の指定について出てこない。何か整理しているのか。

（事務局）

条例で特別地域に指定した区域においては、一定の行為は知事の許可を受けなければしてはならないという制度があり、その行為の1つとして「高山植物その他の植物で知事が指定するものを採取し又は損傷すること」が許可対象となっている。それに基づく指定を今回の新規指定ではどうするのかという趣旨のご質問と承ったが、既に指定した自然公園では、それぞれの公園における指定植物の指定を行っており、今回、審議をお願いする僧ヶ岳についても自然公園の指定がなされれば、速やかに指定植物の指定を行いたいと考えている。

今年度から来年度にかけて、レッドデータブックの改定作業にもとりかかっているので、改定作業の最新のデータを踏まえて、なるべく早い段階で新規に指定する公園についても植物の指定の作業に入りたいと考えている。

（委員）

県立自然公園の指定に向けてぜひ積極的に委員会の議論を進めてほしい。

最近、関係者で、僧ヶ岳・駒ヶ岳周辺において主として宇奈月方向からの登山・実地検分を行ったか。

(事務局)

直近の現地調査は平成19年度であった。今回の指定においては、この後、審議に入る中で、現地調査をしたうえで審議していただくことを予定している。

(委員)

ぜひ、宇奈月から登って僧ヶ岳、駒ヶ岳、そこから片貝第四発電所のダムサイトの方へ降りるルートを歩いて、実際の環境の中に身をおいて、検討するための資料を集めてほしい。

私も相当前にそこを歩いたが、まず1つは林道が非常に悪い。それから僧ヶ岳の登山口の道が非常に急峻で未整備である。そして、僧ヶ岳から駒ヶ岳までの距離が非常に長い。そのようなことも含めて、検討するときには、車が通れる最低限の道路整備と登山口でのトイレ或いは僧ヶ岳でのトイレ整備、また行程が長い場合も考えられるので僧ヶ岳周辺での避難小屋の設置などを考えてほしい。

(委員)

利用の促進ということで1つアイデアがある。最近、ジオパークという概念があり、一番の成功例は糸魚川のジオパークで世界ジオパークに認定されている。富山県には非常によい自然公園があるが、一般の方が自然に親しんで環境を考えつつ調査をしたりといった世界遺産とは少し違うコンセプトで、ジオパークという考えで利用促進を図るという方法もあるのではないか。県や関係市町村がそのような取組みをするのはいかがか。

(委員)

自然環境専門部会での審議ということだが、野生生物も多いので野生生物専門部会の方も一緒に検討に加わった方がよいのではないか。

(事務局)

自然環境専門部会の専門員のメンバーの中に野生生物に詳しい方を入れ、基本的には自然環境専門部会で審議していただくという形で対処したい。

## 5. 富山県大気環境計画（ブルースカイ計画）の見直しの要点について（報告）

(委員)

非常によく調査していただき、課題と方向性は出たが、答申までにはまだまだ時間がかかりそうか。

(部会長)

光化学オキシダント原因物質である揮発性有機化合物の削減対策について検討が残されている。

(委員)

資料にモニターアンケートの結果が出ているが、実際の測定結果はどうだったのか。

(部会長)

測定結果では県内の大気環境はきれいになってきている。モニターアンケートの結果を見てもらうと、大気がきれいになっているにも関わらず、県民が年々、敏感になってきている。例えば、汚くなったと感じている方は、黄砂や自動車排出ガスなどの身近な直接的に感じられるものに非常に関心が高いものと思われる。

黄砂は富山県が排出した訳ではなく、ご存知のとおり中国の西部を中心とした細かい砂が偏西風によって日本海を越え、九州北部から日本海沿岸の地域にきて視界を妨げており、洗濯物を汚しているなどの問題がある。

更に付け加えると、光化学オキシダントについては、山岳など今まで濃度が高くなかったところも濃度が高くなってきており広域化が見受けられる。富山県の工場地帯で排出されたものや自動車から排出されたもの、その他、いろいろ報道されているように、やはり中国を中心とした地域からの化学物質の移動などが主たる原因になってきている。

他県とも協力しながら対策を考えていく必要があると思う。

(委員)

光化学オキシダントの注意報や警報は最近、出なくなったと思うが。

(部会長)

注意報は1時間あたりの濃度が0.12ppm以上の場合に出るが、平成19年に1回出た。

## 6. 富山県の環境行政の概要について（報告）

資料配付により報告とされた。〈質疑事項なし〉